

## 第4回

# 新宿区次世代育成協議会・部会

平成21年9月3日(木)

新宿区子ども家庭部子ども家庭課

## 事務局

本日の資料は、次第と前回の会議の論点整理メモを机上配付している。

「平成21年度 第3回次世代育成協議会・部会 論点整理メモ」について。

目標1-2「子どもの生きる力を育てるために」の中に、思春期や若者の支援も含まれているが、義務教育終了後の者も対象になるので、子どものくくりではなく目標5のほうが適しているのではないかという意見があったが、事務局では、思春期、若者の支援については子どもの生きる力を育てていくことが自立につながっていく、その延長線上で考えたいということで、ここにそのまま残したいと考えた。

次、目標1について、表現の問題で「何々のために」としている。これについて、ほかの目標にかかわる項目についても統一して、この「ために」を使用したらどうかという意見があった。これについて事務局で、「ために」を使用できそうな項目について検討した結果、それを使うことによって意味やニュアンスが異なってしまうのではないかという意見もあり、このままでいきたいと考えている。

3点目、目標4「安心できる子育て環境をつくります」の「もっと安全なまちづくり」について、安全は危険でないことの手だて、安心は心の問題であり異なるものであるので、「安心」を加えてはどうかという意見については、安心を加える方向で検討をして、例えば「もっと安全で安心なまちづくり」という表現はどうかと提示している。

4点目、目標5-2「男女がともに自分らしく生きられるために」の「男女」の表現について、新宿という地域特性を考えると、男性、女性の性別のみにとらわれない表現も検討の余地があるのではないかという意見をいただき、それに加えて、「すべての人が」、「一人一人がその人らしくそれぞれが自由に生きられる社会を目指す」という表現はどうかという意見があった。男女共同参画の社会の実現について、新宿区では男女共同参画社会基本法に基づく男女共同参画推進条例で推進をしている。次世代の中ではワーク・ライフ・バランスの目標を掲げた理由の一つとして、特に男性の育児参加の促進に焦点を当てたいということがあり、性別にとらわれない枠組みの必要性は、素案の本文中にもうたっているが、ここでは男、女という表現をあえて頭出しをしていきたいという考え方で、このままにしたいという事務局の見解である。

最後、目標4の中項目のほとんどが「何々づくり」となっており、目標4-2の「子どもと一緒にのお出かけが楽しくなるまち」を「子どもと一緒にのお出かけが楽しくなるまちづく

り」としてはいかがかという意見があった。

#### 部会長

今説明したのは、前回議論した大枠についての項目である。きょうの大きな時間を割きたいのは、この中身の問題についてだ。これを読んで、いろいろと意見等々あろうかと思う。きょうは、全部これについて目を通して、出た意見をさらにフィードバックして、最終的なものを次回までに提示できるように準備したい。そういうわけで、できるだけこちらに時間を割きたいと思っている。

その前に、その体系案、大きな枠組みの問題であるが、今、整理していただいたことについてもう一度それぞれ確認していきたい。

まず第1点、思春期、若者ということは子どもの延長上にあるので、この思春期、若者の支援については目標5にという意見があった。でも、ここでの案は、子どもの延長上にこの思春期問題を考えていくというところで、あえてここに入れておいた。もちろん、目標5に持っていった方がいいと思うが、そうすると、子どもの延長上にというニュアンスが少し失われてしまわないかということもあった。これは一応ここに入れておくという方向で進めたいと思う。

第2番目、「ために」ということについて、これもほかの目標等の関連で「ために」と統一したほうが形、体裁もいいのではないのかとの意見をいただいた。でも、これも確かに「ために」で意味が通るところもあるが、「ために」とするとニュアンスが本来最初のもので少し違うことになることもあるので、あえてすべてを統一することにこだわる必要はないのではないかと思っている。

#### 委員

目標のところに掲げてある文言について。そのの主語は何かといった場合に、「私たち新宿区は」というのが括弧でくくられていて、「何々します」とか、その1とか2というのが「何々のために」というふうに私は考える。

そういう主語と述語が、日本語の場合非常にあいまいにされている部分があるが、それをあえて入れていないので、それをもっとわかりやすい表現にするためには、やはりそういう表現のほうが読みやすいのではないかと言った。

だから、無理に「ために」ということを全部つけたらと言っているわけではなく、目標1、2、3、4というのは「私たち新宿区は」というのが括弧で隠されており、あえて主語は出していないと思う。それで、その1、2、3と「何々づくり」や「何々のために」。そう考

えたほうが、より考えがすっきりわかるのではないかと言いたかったので、文言だけ統一したらどうかという意味だけにとらわれてはいかがかと言いたかった。

会長

例えば目標1に関して言うと、確かに言うように主語が隠れている。「新宿区は」というふうに置いておいていいと思う。それをあえて全部につける必要はないだろう。

目標1は、「子どもの生きる力と豊かな心を育てます」である。具体的なところになると、「すべての子どもが大切にされる社会のために」、「子どもの生きる力を育てるために」、「子どもが心身ともに豊かに育つために」と、3つ「ために」がある。それは「育てます」、なぜかというところの「ために」というので、全体で統一がとれている。目標1はこれでいいと思う。

目標2は「健やかな子育てを応援します」である。なぜかというところ、一つは「安心な妊娠・出産から始める子育てのために」というか、「子育てを推進するために」。そして「子どもの健やかな成長のために」ということで、ここに2番の「ために」。そうすると、できるところについて「ために」を加えることで検討すればよろしいか。

委員

無理に全部「ために」をくっつけてくれというのでない。

部会長

では、そこについては趣旨を受けとめ、ニュアンスが変わらない状況の中で、より明確になるところについては入れてみる形にしたいと思う。

事務局

「ために」を使用できそうな項目について全部検討してみた。しかし、「ために」をつけてしまうことによって微妙なニュアンスとか意味合いが変わってきてしまうという結論に達した。新宿区はこういうことをしていくということが頭に隠れているが、そのところで「ために」をつけない、体言止めにしたほうが、よりメッセージ性があるのではないかという判断を事務局としてはした。

とりあえずきょうは意見として受けとめるが、検討した結果、こういう資料をつくったことを了解いただきたいと思う。

部会長

3番目の目標4について、これは意見をそのまま受けとめ、「安全で安心なまちづくり」という形で、安全と安心を両方併記する形に直す形になった。

委員

小さいことだが、括弧して「安心」ではなくて「安全」である。対応の欄で、3を見てもらうと右に対応の欄がある。「安心」とあるが、これは「安全」を加えてほしい。

事務局

「安心なまちづくり」になると言ったので、ここに「安心」を加えると。違うところに「安全」を加えるのではなくて、「もっと安全なまちづくり」のところに「安心」を加える形である。

委員

表題でなくて、中身でという意味だったのか。私は表題と理解していた。

事務局

私が理解していたのが、目標は固まっているという認識で、その整形についての意見と受けとめてしまったので、目標のところはいじらずに「安全なまちづくり」のほうに「安心」を入れた。

目標はもう固まっているという認識だったから、論議されているのが枝のところと理解をしてしまったので、そのような対応をさせていただいたが、目標自体のところに加えることで皆様に了承いただけるのであれば、構わない。

委員

また、「もっと」という言葉を使っていたのだが、表題のところであるならそのまま、表題のところを直すとするば、「もっと」というのはほかの表題のバランスでおかしいと思った。ここだけが「もっと」という言葉を使うとおかしくなるのではないか。

部会長

2つ分けて考えていきたい。

まず第1点、修正案の目標4、「安心できる子育て環境をつくります」の中に1、2、3、4、5とあって、そのうちの4番目に「もっと安全なまちづくり」となっている。それを修正するとすれば、「もっと安全なまちづくり」を「もっと安全で安心なまちづくり」と事務局では対応しようということだったが、そもそも目標自身の中に「安全で安心できる子育て環境をつくります」という形で、ここに「安全で」を加えても別に大きな意味は変わらない。

事務局

ただ、安全というと狭くて、安心は安全も含めて安心と解釈ができると私は理解をしていたので、この表題に「安全」を入れるとかなりそこが狭まってしまうのではないか。

部会長

これはどちらがという形で決着すればいいだけの問題になると思う。むしろ目標自体はこのままにしておいて、細かい4のところでは「もっと安全で安心できるまちづくり」という形で安全と安心も両方併記する形にすれば、全体としてうまく対応できるという気がする。

「もっと」というのは、あえてここでは、安心とか安全はかなり主観の問題も入るので、かえってそういう主観的なものを入れてもニュアンス的にはおかしくない気もする。

委員

安心というのは人それぞれによって感じ方が違う。しかし、安全か危険かというのはそうではない。ある程度物差しがしっかり出る。だから、安全と安心は全然意味が違う。それを一つでまとめようとするのは非常に難しい面がある。

部会長

意味が違うとは思わない。やはり安全だから安心できるということができて、安心できるからそのところは客観的に安全だということもできる。だから、やはりこれは表裏の関係なのではないか。全く異質のものではないと思う。

委員

一般的に言われているのは、安全だから人それぞれがやはり安心して生活できるという言い方をすると思う。ただ安心というのは安全だからということではないと思う。いろいろな面の安心というものもあると思う。

事務局

安心できる子育て環境の中に安全もあれば、みんなで子育てを支える環境、バリアフリーの問題、未来の子どもを育てる環境というものもある。安心の大きくくりがあって、その下の項目に安全が入っていると事務局では考えている。

委員

1、2、3の文章からすると、やっぱり安心だけでいいかと思う。安全を入れるならば4に入れて、このままでいいのではないかと思う。

部会長

以上で大体大枠については固めた形にしたい。

それでは、いよいよこちらの条項に入っていきたいと思う。進め方だが、まず、それぞれ目標1の細かいところの1、2、3と幾つかある。それぞれについてざっと皆さんお読みいただいた段階で、こんな問題があるのではないか、このところはどうかという意見を、

最後まで通して全体を見渡したいと思う。そこではあえて議論はできるだけしないで進めたい。それを一通り全部意見が出そろった段階で、もう一回最初に戻り、それぞれについて先ほどの意見、こういうことはどうなのかということ議論して進めていきたい。そうすると、全部行き渡り終わると思う。

まず、目標1「子どもの生きる力と豊かな心を育てます」の「1 すべての子どもが大切にされる社会のために」について。

「本計画では、子どもの権利を大切に捉え」という言い方だが、ここも、こうした子どもの基本的権利を大切にとらえ云々という言い方のほうが丁寧かと僕は感じた。

次に、「2 子どもの生きる力を育てるために」はどうか。

委員

6ページ、「取組みの方向」の中に「新宿区勤労者・仕事支援センターにおける就労支援」という表題がある。これは49ページの目標5との関係もあるのではないかと思う。ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりとの関係があるので、そちらとの関係も整合性が図られているのか。

部会長

整合性がない状況というのはどういうことを想定するのか。ここにあることによって、こういう整合性が欠くのではないのかという具体的な指摘はあるか。

委員

前段では、子どものことが中心だと思う。しかし、目標5に行くと、子育てのことが薄くなって、大人のこと、仕事中心のことが中心になっていく書き方のように思われる。だから、子どもと大人でやはり全く違うような感じがする。

部会長

この前段のところは、一応子どもから生涯発達の思春期以降の段階まで入る。そして、特に思春期や若者への支援というところが文言にある。それを受けてここに入ってくる。特に思春期の若者たちに対する就労支援という形でこれを読んでもらえば整合性があると思う。

ワーク・ライフのほうは、仕事と家庭というか、そのバランスの問題をするために事業者として何々するべきかという問題になっていく。

委員

ここを見ると、障害者、高齢者のこともあるし、若年非就業者に対してというのが目標1

にある。そうすると、やはり大人のことも言われているのかと思う。だから、それを踏まえると目標1と目標5のかみ合わせが気になる。

部会長

目標5に就労支援を持ってきてしまうと、逆の指摘がなされる可能性がある。だから、それはワーク・ライフ・バランスの問題ではないのではないか。ここはあくまでも就業支援。仕事につきたくてもつけない、ある意味で誤解されているニートとかいう人々だ。仕事をしようと思ってもなかなかつけない若者に対する支援もする。それは若者だけでなく、就業支援については障害者の方も、ここには高齢者の方も入っている。だから、あくまでも仕事支援ということの中に若者も入るといっているのでここに入れておくほうがいいのだろう。この点はまた後で議論する。

委員

平仮名で「はぐくむ」という言葉がある。これは意図的に平仮名で「はぐくむ」という形にしているのか。その辺がこの章立てを作成された方の意図がよくわからなかった。

事務局

漢字等の表記については統一をしているつもりであるが、まだなかなか統一できていない部分もあり、それが今のような指摘かと思う。

委員

だから、意識的にそうして気を引こうとしているのか、あとは作成者が3人4人で章立てを分担してやっているから、私はそう思うということで行っているのかと考えた。

部会長

ここでは2点ほど意見があったということで、後ほど戻る。

あと、親に対する支援などはここでは入れないのか。例えば母親学級とか。子どもに対することはいろいろここで言われているが、子どもの保護者に対する教育活動みたいなものはここには入れてもいいのではないか。子どもをうまく育てるために親はどういうことをしたらいいのかということ伝えるという活動もあっていいかと思う。

次に、7・8ページの目標1 - 3「子どもが心身ともに豊かに育つために」の「心とからだの栄養素「遊び」」について。

委員

表記の問題で、例えば7ページの「区内の公園は189か所あり」、その後ろに括弧書きで「平成20年4月1日現在」と入れるのが私は自然な表記だと思う。これはあとで統一したほ

うが いいのではないか。

部会長

これはおっしゃるとおりだと思ふ。これは単純に括弧の場所を変えればいい。

次は「心とからだの栄養素「文化・芸術」」について

委員

10ページに「新宿区子ども読書活動推進計画」の着実な推進」とあるが、その行の下、保護者に読書やお話とここにあるが、これは保護者というのは不要ではないか。ここは子どもが基本であると思ふ。ならば、保護者に読書やお話をという保護者というのは削除してもいいのかと思つた。

部会長

ここで言う保護者というのは、新宿区が対応するのは直接子どもに本を読むことが好きになってほしいような心がけをするはするが、それ以外にも子どもにかかわる大人、特に親たちに対して、読書を読み聞かせとかいうものを指導することによって、それを通して子どもたちが本を好きになっていくということで、ここでいう保護者と入れている。

委員

だからこそ、子どもが基本ではないかと。子どもを中心に書いて、ここの文言だけを見ると、「早い時期から保護者に読書やお話の世界の素晴らしさを実感してもらいながら」とある。だから、私は早い時期から本当だったら子どもたちに読書、お話の世界のすばらしさをと、こういうのが正しいのかと思つた。そういう意味を含めて保護者というのが必要かどうかと思つた。

部会長

では、これも後ほど。

その次、目標1 - 3の「心とからだの栄養素「食」」の問題。

委員

このごろ男性でも料理の得意な方がふえているようだが、父子家庭でお父さんが参加できる企画が少ないとかと伺つたことがあるので、料理など割と参加しやすいし、男性で不慣れな方もいるかもしれないので、そういうニュアンスのことが少し入れられてもいいかと思ふ。

部会長

これも後ほど議論したいと思ふ。

#### 委員

表記の問題だが、12ページの「食を楽しむ機会の充実と啓発の推進」について。最後を読んできると、「環境づくりに取り組んでいます」ではなくて、「取り組んでいきます」にしてほしい。また、「学校では、各校の特色を活かしながらとあるが、「ながら」という表現は余り好きでいので「活かして」に、あと「充実を図っていきます」という表現に統一してほしい。これは取り組みの方向だから、していたのでは方向にはならないから、「いきます」と改めてほしい。

#### 部会長

上は「いきます」である。例えばすぐ上は「食育を充実していきます」。ところが、ここは「います」。これは何か違いがあるのか。

#### 事務局

そのとおり、方向である。今やっけていても、さらにやるという意味だ。

#### 部会長

では、「目標2 健やかな子育てを応援します」の「1 安心な妊娠・出産からはじめる子育て」というところ。

ここは特にないようなので、「2 子どもの健やかな成長のために」について。

#### 委員

13ページに「父親（夫やパートナー）」とあるが、その2行下に、「妊婦にパートナーから」とある。

#### 部会長

これは、最初は、「育児における父親（夫やパートナー）」とある。ところが、そういうふうに言っておいて「妊婦にパートナー」だけになってしまう。最初はあえて、夫やパートナーというのを説明に分けて、それは父親というくくりの中に入れておいて、下だとパートナーというふうに分けているから、これ別のことを言っているのかという受けとめ方がなされる。

だから、下も上と同じように「妊婦に父親（夫やパートナー）から」でいい。

#### 事務局

「妊婦に父親」となると。この前の行は育児における父親で、子どもに対する父だが、ここは妊婦に対するだから、父親と入れないで、単純に前の行と同じように「夫やパートナー」というように。

部会長

整合性を一緒にすればいいというだけの話なので、「夫やパートナー」でもいい。

次に「2 子どもの健やかな成長のために」の中の「乳幼児の健やかな発達支援」について。

これは、マタニティブルーズというのか。複数形でいいのか。

事務局

一般的にはブルーと言われているが、正式にはブルーズである。

部会長

「2 子どもの健やかな成長のために」の「学童期から思春期までの健康づくり」について。

委員

「目標2 子どもの健やかな成長のために」の中に「学童期から思春期までの健康づくり」とある。それで、「健やかな体力づくり」の中に、「20代のH I Vの感染者が～」とある。この20代というのは必要ない感じもする。表題からすると思春期までの健康づくりと20代との関係である。

部会長

H I V感染について、近年特に問題になっているのは20代が多い。特にこれは性感染症というものが20代でとても増加している。ということで、20代というのは正確だ、これを入れたほうがいいと思う。

ただ、「20代のH I V感染者が増加しており～」だが、H I Vというのは確かに典型的なティピカルな性感染症の一つではあるが、大きくはS T Dと言われている性感染症自体がもっと増加しているということを書いてもいいのではないか。だから、H I V感染を含めて20代の性感染者あるいはS T Dが増加しており、と言ったほうがいいと思う。

事務局

実際データを調べてみると20代の性感染症は横ばい状態である。それは「定点」という医療機関で把握している統計なので未受診者の方もいるし、H I Vの感染者の中を調べると性感染症を重複している。区でH I Vの抗体検査とあわせて性感染症の検査なども無料でやっているが、実際そういうところに来ている方は性感染症の方も非常にふえている。全国的、東京都のデータで見ても、横ばい状態という。あえて数字として出してしまうと誤解を招くのかと思い、実際ふえているH I Vのことだけを表記した状況である。

部会長

ただ、H I V感染に対する予防をキャンペーン張るのはとても大事だが、むしろ若者のクラミジア感染というのは非常に今ふえている。これを医者たちは本当に憂いているところだ。そこをやっぱりうたったほうがいいのかと思う。

事務局

どうしたらいいのか。数字的には、やはり東京都などで発表している数だと横ばい状態である。

部会長

それを加味しながら、ここで入れる表現を考えてみたいと思う。

委員

20代でくくるのであれば、この資料が何年間ぐらい使えるのかということもある。

部会長

そうすると20代要らないか。若年のならいいのか。

委員

また、H I Vだけが、性感染症ではないかもしれないが、B型、C型肝炎、A型も含め、A型などは結構感染が非常に多い。H I Vなどは慢性化する。A型、B型の場合には慢性化しないが、肝炎の場合、C型以降は慢性化していく。H I Vも非常に怖い、それだけではないところが一部ある、というようなことも盛り込んでもいいのではないか。

委員

盛り込むのであれば、例えばはしかやインフルエンザを盛り込んだらどうか。時代背景もあるだろうから。

事務局

これは性行為によってうつる感染症というあたりの、性行動のことについての中身だが、その辺にさらにほかの感染症も加味したほうがいいということか。

委員

これで十分だと思うが、もしボリューム的にもう十分ということであればそれでもいいかと。

委員

あくまでもこの段落は、その上にあるように、性行動が非常に活発化している状況にあって、その関係の中で性行動を媒介として云々ということがここに出てきている。それに加え

て、はしかとか新型とかそこまでいくと、散漫になってしまう気がする。

事務局

実際の個別の事業としては予防接種であるとか、今言われたA型なども含めた感染症という対策が、A型については子どもがターゲットのものはないが、予防接種などでは事業としてはやっている。それがこの下にはついてくるが、特設課題として出したのがこのあたりというところである。

部会長

では、これは後でもう一回議論する。

その次、「目標3 きめこまやかなサービスですべての子育て家庭をサポートします」の、「1 子育て支援サービスの総合的な展開」について。

委員

19ページで「子ども家庭支援センターや保健所」と書かれているが、今、直接住民サービスを行っているところが保健センターになっているので、保健所は別にある。保健センターという表記のほうが正しいと思う。実際に相談の窓口のというのは保健センターである。

部会長

では、これは「保健所」を「センター」に直す。

また、その上の「子育て支援サービスの充実と子育てに対する意識の現状」のところで、4行目「すくすくあかちゃん訪問」の「あか」は漢字の「赤」が正しい。

その次、「経済的な支援」について。

委員

手当の関係について書かれているが、行政が変わってきたときも、新宿区のこういった内容も極端に変わるということはないか。子育て手当が今盛んに言われているが。

部会長

政権交代に伴ってということか。

事務局

むしろ国に先んじて新宿区は子ども手当を中学生までという形でやっており、それに国がついてきている形で、制度としてはお金の出所とかそういうものは乗りかわっていくが、今のところは、考え方としては特に大きく変える必要はないと思う。

部会長

「2 都市型保育サービスの充実」の「保育園待機児童の解消」について。

委員

「子どもが生まれても仕事を続けたい！」というところ。その次にあるビックリマーク、こういうマークはやはり取るべきだと思う。そのほかにも随所にあるので取ってもらいたい。

部会長

それはそのとおりなので、対応する。

ではその次、「多様な保育サービス」について。ここについて訂正はない。

では、「学童クラブの充実」について。

委員

28ページ「区学童クラブの登録児童数は増加傾向にあります、増加率は鈍化しています」という表現がわかりにくい。

部会長

全体として絶対的な増加しているが、割合、増加率は去年は10%だったが今年は8%とかということなのではないか。

委員

そうすると、増加率が鈍化しているというと非常に後ろ向きのような形に見えてしまう。つまり、パイが結局そうふえているわけではないというか、昭和20年代とか30年代のような人口構成ではないから。

委員

「増加率は鈍化しています」という表現をそのまま載せてしまっているのか。

部会長

ずっと10%伸びてきたのが、最近では5%とか3%というふうに率は下がっているという形であり、減ることはないだろう。増加はするが増加の率だけをとってみると、10から5や3になったというような状況だと読める。

委員

あえてそこに「増加率は鈍化しています」という表現を載せるのがいいのか。学童クラブに登録する児童数がふえているということは、いいことだと思う。利用者がふえており、マイナスになるよりはいい。だが、「増加率は鈍化しています」というのはどうか。

部会長

そうするとその次の文章に、つながらなくなってしまう。伸び率が減ってきたが、なぜかという、この放課後子どもひろば事業が出てきたので、そこにかかわる子どもたちがいた

からとつながっていく。だから、ここはむしろこっちの率が減ったことが大事だろうと思う。

では、「3 特に配慮が必要な子どもと家庭のために」の「障害児等と家庭」について。

委員

30ページ一番下の行、「そのためには、関係各課がより実効性のある連携を取っていく必要があります」という表現があるが、あえてここで言う必要はないのではないか。ほかの文章との関係を見ても、当然これはもうするべきことだろうと、していることだろうと思う。どうしてここだけ入るのか。何か特別入れる、残す理由があったら教えてほしい。

事務局

去年調査をしたときに、障害のある子どもの親にターゲットを絞った調査を郵送では行わなかったのが、学童クラブに在籍されている障害児のお母さんたちと懇談会をした。そのときに、同じ一人の子どもに関する事なのに、例えばホームヘルプサービスを使うには障害者福祉課であり、学童クラブに行くのは児童館や子どもサービス課だったりする。また、学校に進学するのに教育委員会だったり、いろいろな窓口があり、そのたびにいろんなことを説明しなければいけない。何とか庁内の連携をよくできないものだろうかという意見をいただいた。

本当に今、これはもうできていて当然ではあるが、あえて区の課題として挙げさせてもらいたいということで、この一文を入れた。

部会長

次に、「ひとり親家庭」について。ここは訂正等ない。

その次、「外国人家庭」について。

32ページのところで、ひとり親家庭に関する項目だが、「父子家庭を含めた」という表現がある。ここは父子家庭だけか。

事務局

ひとり親というか、上が母子を含んでいるので、今度は父のことを語る。国の制度というのが母子になっているが、新宿区の対応としては父子も含めているということを言いたい。

部会長

それでは、「外国人家庭」についてはどうか。

委員

35ページ「日本語サポート指導の充実」で「行っています」、「実施します」という表

現になっているが、「行っていきます」とか「実施していきます」という表現のほうが適切かと思う。

部会長

これは全体を通して一遍見直す必要がある。

委員

33ページ「自立に向けた支援体制の強化」というところで、1行目の「保育園に入園しやすい環境整備」という文言がよく意味が理解できない。

事務局

ひとり親家庭が就労して自立していくために、まず子どもを保育施設に預けなければいけない。そこがベースになって、保育園に入れないとせっかく決まった仕事もあきらめなければいけないというような実態があるので、ここにあって「保育園に入園しやすい環境整備」という一文を入れた。

部会長

何か代案ないか。保育園に入園しやすいという意図はいい。特に、ひとり親に対して保育園に入園しやすい。後ほど考える。

「虐待予防及び被虐待児と家庭」について。

委員

36ページの「虐待発生予防の取組み」の2行目で、「母親が安定した心で子育てに臨めるよう」とあるが、これ母親だけとしてもよいのか。

部会長

父親も入る。親でないところもあるので「親や保護者が」がいいだろう。

では、「目標4 安心できる子育て環境をつくります」について。

委員

3点ほど教えていただきたいことがある。

1点目は、38ページの一番下、「個別支援」というのは何か。

2点目は、39ページの真ん中あたり「また、落合三世代交流事業のように～」と書いてあるが、これはどんな組織か。

3点目は、39ページの下の方に行って、「世代間交流の促進」のところで「シニア世代のいきがづくり」とあるが、これは具体的にどのようなものか。

部会長

まず、個別支援について。まさに個別的な支援なのではないか。それぞれいろんな状況が違うわけだから、それを一律的にはできない。個に応じた支援をとということなのではないか。

委員

一つ例を挙げてほしい。

部会長

各子どもたちそれぞれの状況がそれぞれ違うから、それぞれの状況に合わせた子供一人一人に対するいろんな援助をしていこうと言っている。また、必要に応じてであるから、全部人数が違うので、欲しているものも違う。だから、それに応じた支援というのを、普通個別支援という。

委員

次の落合三世代交流事業について。

部会長

落合三世代交流事業は新宿区の特に落合地区の事業である。

事務局

こちらのほうには非常に簡単に1行だけ載っている。6ページに三世代交流モデル事業ということで、西落合児童館で幅広い年代が交流できるみんなの居場所づくりを地域の人と一緒に進めていると。この段階では進めていたが、21年度にオープンして地域の方で組織をつくっていただき、三世代が交流できるスペース、その運営を始めた。ここで事例を出してしまっているので、もしわかりづらければ最終的に本にまとめるときにはトピックスみたいな形で見られるようにするか、事業をぶら下げたところにきちんと書くようにする。

部会長

最後に「シニア世代のいきがづくり」について。

事務局

今、生涯現役塾や高齢者のほうでさまざまな事例が展開されている。その中で、高齢者の方が子育て支援の活動をするという事例があるので、区がやっているというよりは、そういう活動の中においてという活動を考えている。

部会長

では、次に「2 子どもと一緒にのおでかけが楽しくなるまち」について。

委員

40ページ「子どもと一緒にのお出かけが楽しくなるまち」のところで、文章を2つに分けなくていいのではないかと。あとに出てくるところのほうが子育てをしていて負担に思った点があるので。

部会長

これをあえて2つに分けなくても1つにまとめても可能ではないかということか。この構造は、最初のところはまだ問題点があるということか。それとも物理的なことが上に書いてある。

委員

子どもも、親も、自分が楽しくなるまち、笑顔があふれるまちだということとかいいのではないかと。

部会長

これを上に持っていったほうがいいのかということか。

事務局

「子どもと一緒にのお出かけが楽しくなるまち」をやめて、「子どもの笑顔があふれるまちに」を上に持ってきたほうが、まちづくりのほうが広いだろうという意見か。

部会長

これをこっちの「子どもと一緒にのお出かけが楽しくなるまち」というタイトルよりも、「子どもの笑顔があふれるまちづくり」とか。

事務局

お出かけというと、多少行動が限定されるから、それよりは広い意味という意見である。

部会長

これは後でまた整理する。

次、42、43ページ「3 役立つ情報を届けるしくみづくり」。ここはいいか。

では、「4 もっと安全なまちづくり」のインターネットの問題について。

委員

45ページ、「取組みの方向」という表題の下の四角の中に3つの がある。この3つの について意見がある。

1つ目として、現状と見守りの活用内容等を書いていただきたい。

2つ目が、通信の手段の発達等から増加傾向と活用することがあるので、その辺のことも

少し触れていただきたい。ここをもう一度、前との関係で再検討していただきたい。

ここに書かれている「地域との協働」や「ピーポ110ばん」「安全教育」「学校」というこれを少し組みかえていただけたらと思った。

部会長

それは大きな問題があるので後にする。

次、46、47ページ「5 未来の子どもへの環境づくり」については特にない。

委員

下のほうに、住環境という言葉と居住環境という言葉が出てくる。住環境ということは決して悪い意味ではないわけなので、居住環境の課題がありという表現のほうが適切でなじむかと思う。

部会長

これは文言的な問題である。確かに混乱している。

委員

住環境の課題と言われても大きなお世話になってしまうので、やはり居住環境が大事なことだと思う。だから、やはり居住環境という表現にする。

部会長

では、最後の「目標5 ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりを推進します」の「1 仕事の子育ての調和に向けた取り組みの推進」については特にない。

次に52ページ「2 男女がともに自分らしく生きられるために」についても特にないか。なければ、また積み残した問題に入って整理したいと思う。

委員

49ページでワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりという大きい目標を掲げている。その中身の最初の「1 仕事と子育ての調和に向けた取り組みの推進」のところを見ていくと、現状と課題の2番目の印が「ワーク・ライフ・バランスの普及・啓発」となっているが、これ子育てとは関係あるのか。その辺を確認させていただきたい。

あくまでここは仕事と子育てということだから、その辺を中心に書くのかと思ったが、子育てのことが後ろに行くに従って薄くなっていってしまう印象を受けた。あくまでも子育てということを中心に持っていただきたいというのが私の考えである。

部会長

そうすると、こんなことを書く必要はないということになるか。

委員

書く必要はないということではなく、もう少し子育てということを入れていただくと、よりいいかと思った。

部会長

例えば50ページに「仕事と子育てや介護との両立支援～」というのがある。ここで子育てが出ている。だから、随所に入れているのではないか。

委員

次の 印に行くと、「帰りたくなるまち」となる。それも子育てと関係あるのか。

部会長

関係もあるのではないか。早く帰れば子どもといろいろとかかわる時間もふえるだろう。

委員

ライフという言葉の中には家庭という意味も含まれる。子どもを持っていない家庭にももちろん、これは子育てという中心だが、それだけではない。子育てにかかわる家庭、例えば子どもができなかったが近所のボランティア活動をやっている若い方はたくさんいるから、そういう人も読む。

委員

そこまで拡大して考えるということだろうか。

部会長

あえて子育てや子どもという言葉を文言的に入れなくても、家庭と仕事ということを中心にバランスよくしようという発想の中には、家庭の中には当然子どもというものも、子どもをお持ちの方はイメージするだろうということではないか。

委員

私はあくまで表題が子育て、仕事と子育ての両立という発想があったので、先ほどのような意見を申し上げたが、そこまでみんな含んでいるととれるのであれば、それでよろしいのではないか。

事務局

ここには触れてはいないが、5ページ「2 子どもの生きる力を育てるために」の「思春期や若者の支援」について。ここでは就労支援を中心に述べているが、今、婚活というものが話題になっており、ほかの自治体ではそういうものを自治体が行うような事例も出てきている。現在、新宿区のスタンスとしては、そういうものについて公共があえて今の時点で

乗り出すかについてはまだ合意には至っていない。むしろコミュニケーション能力の醸成などを通じて、社会性がもっと豊かにはぐくまれることによって、男女のつき合いとか先に結婚というのがあり、それが子どもを生み育てるところに結びつくという、その段階のところの課題は、やはり次世代の課題だろうとまでは話しており、次に示すときには、その辺も少し触れるようなことで事務局としては今考えているので、あらかじめ了承いただくとともに、もし何か意見があればと思っている。

部会長

もとに戻って最初に再議論しなければいけないところは、まず思春期の問題で、思春期の問題は子どもではない、しかも就労問題はこちらにということの意見である。

それに加え、この思春期に対する支援の中には、ここには触れていないような幾つかの問題が盛り込められる可能性があるということである。

次は10ページ、目標1 - 3で保護者。この意図は、子どもに直接いろいろ働きかけるという事業もあるが、子どもを取り巻いている周りに対して、特に本読みに関しては、親が本読みを聞かせるということを指導することによって、本好きになる子どもが育つ援助をしようということで、保護者である。

委員

私が先ほど言ったのは、ここは子どもが中心であるということ。そういう意味からすると、保護者ということではなくてもいいのかと申し上げた。

部会長

それを重々承知した上での今の説明で、子ども中心である。保護者のためではなくて、子どものためにそういう支援を保護者に行うという意味である。

委員

まだ本が読めない子どもに関しても、保護者に読んでもらおうと、次は自分で読む。

部会長

「保護者にも読書やお話の世界の素晴らしさを実感してもらい」。つまり、子どもも大事だが、まず読み聞かせが一番、母親を中心にした触れ合いが大事だろうということで「保護者」が出ていると理解しているが、もし言葉をもうちょっと大切に使うのであれば、そういうことかと。

委員

「保護者に」ではないか。「も」だとちょっとおかしい。「も」ということは一人ではな

く、何人が対象ということだ。

部会長

そういう問題ではなくて、子供との関係だ。

委員

私もこれは別に問題にすべきところとは思っていない。あえてみんなの意見を総合するのであれば、そういう言葉の使い方かと思った。皆さんがそういう意見であればいい。

部会長

次、目標 1 - 3 で父親参加型の料理について。食生活というか食育の問題で、出てきていることはかなり、父親の料理教室みたいなものを新宿区でやらないのかということである。

事務局

今男性も、家事全般だが特に料理に興味を持っている方が多く、高齢者の方に料理教室をすると、男性の方も普通に料理教室に参加して下さる、だんだん時代の流れになってきている。

この子育て支援の計画を立てるときに、父子家庭がふえてきている、そういう方たちへ向けた何か支援がないかということ、食育のほかの面でも職員の間で話し合った。ところが、父子家庭の家庭というのは、300 ぐらいの母数のアンケートの中で 3 件ぐらいしかなかった。そうすると、その方たちだけに向けた事業というか取り込みは考えづらかったところもあり、特に父子家庭に向けた取り組みというのは大きくは打ち出さなかった。

部会長

父子家庭と限定しなくて、普通の家庭の中でも父親も母親も料理は皆でしょうというキャンペーンはあっていいと思う。

料理というとイコール女性というふうに固定観念があるが、それをどこかで一言でもいいから、男性も子育てできるような、あるいは料理にかかわるようなことを書いてほしい。

事務局

食育の中で男性も参加することによって、例えば今、中高年のメタボ対策や、食に対する安全とか知識そういうものにもつながっていくので、行政がいろんな意味で協働してかかわっていくという基本的な理念というのを、そこここにちりばめられればという程度の話である。

部会長

例えば「食を大切に作る心・豊かな心をめざす」というところのどこかに、女性だけでは

なく、男性もというニュアンス入れるということである。

事務局

考えさせていただく。

部会長

次に目標2 2。性感染症の問題について。「若者の」にしておけばいいか。「HIV感染を含めて若者の性感染症が増加しており」で間違いではない。そうすると、後でもつながるのではないか。

HIVはすごく大事だと思うが、それだけ特化してしまうと他が陰に隠れてしまう。特にクラミジアは非常に怖い。女性のクラミジアは自覚症状がないだけに、すごく蔓延して怖いらしい。

事務局

あと、増加はしていないにしても一定数いるということが課題であれば、そういう表現の書き方もできる。

部会長

目標1-2「子どもの生きる力を育てるために」のところ、親への支援がないのではないかということについて。子どもに対するいろんな支援というのはあるが、子どもを取り巻いている周りの親たちに対して子育てをどうしたらいいのかということ、日常的に発信する機会があってもいいのではないか。

事務局

ほかの後ろの章にはある。安心できる子育て環境の38ページ、目標4では家庭教育学級など。目標1では、子どもに対する支援、子どもが主役という計画なので、そこに特化して書いた。

委員

45ページの「取組みの方向」について後で検討していただくということだった。

1つ目、「地域との協働による見守り」について、「地域で知恵を集め、あらゆる資源を活用して見守りの輪をひろげていきます」ということが書かれている。

ここで、現状の見守りの活用等の内容を書いたらどうか。それは、現状がどうなのか、あるいは課題はどういうものがあるのか、または改善等、方向づけ、そういうものを書かれるとより以上にいいのかと思った。

2つ目、「ピーポ110ばんのいえの普及拡大」について、ここに書かれているのも一つの

まとめ方だろうが、私は、既に「引き続き登録箇所をふやしていきます」となっているが、増加するよりも、あるものをまず有効に活用することだろうと思う。その理由は、通信手段というのは非常に発達しておるから、幾らでもその辺のことを吸収でき、またはうまくフォローできるのではないかというように考えた。

3つ目、「安全教育及び学校の安全対策の推進」について、この欄は危機という言葉も使っている。ここに書かれているのは学校での教育や安全対策だと思われる。そして、表題と一致していない感じがする。例えば、家庭、地域のことなどが入っているから、そういう意味でどちらかを見直していただくと、より以上いいと思う。具体的に申し上げると、やはりここで書かれるのは家庭、地域、学校のこととか関係機関と、その辺のことをうまくまとめていただくと、より以上にすばらしいものになるのではないか。

委員

「ピーポ110ばんのいえ」というのは、子どもが危機になったときに飛び込めるといふ、そういう家のことだと思うが。

委員

相手方はいつも家にいるのか。

委員

これはPTAの会員でない。まず「ピーポ110ばんのいえ」というのは、警察署から依頼されてステッカーが配付されて登録するような形になる。子どもに限らず身に危険を感じたときにいつでも駆け込めるといふ印である。だから、引き続き登録箇所をふやしていくといふのは、恐らく「110ばんのいえ」がたくさんあることによって犯罪抑止力にもなるという意味合いもある。どちらかという、お店とかコンビニが駆け込み寺みたいになって利用されているのが実情である。

それと、学校でやる安心安全もあるが、学校の外に子どもたちが出ると、学校の責任の範囲外になってしまうので、こういう地域などがかかわって見守ろうという部分のようである。

委員

私は「ピーポ110ばんのいえ」を否定しているわけではない。現在あるものをふやす以上に、今あるものが本当に有効に活用されているかどうかということに着目している。いつでも相手がいて駆け込んだときに対応してもらえるかどうかということ、疑問である。一般の家庭が、いつ飛び込んでくるかわからない人を待っているわけではない。

そういうことよりは、もっと地域の多くの人たちが子どもを見守ったり、安全に登校でき

たり、非行に走らないような方向づけをするのが大事ではないかと考える。だから、あるものは見直して有効に活用することと、ふやす以上にまず身近なことからやっていくべきだということをお願いしたつもりである。

部会長

話が錯綜している。これはこれで「ピーポ110ばんのいえ」というのは今のお話からすると、必ずしも実際にそれが有効に機能するかどうかということもあるが、それ以上にここにも、街角にそういうものがたくさんあることによって、犯罪者の抑止力効果がある。それもねらいだということは理解いただけるか。

それと、現状の資源を有効活用という場合の資源というのはピーポだけに限らない。いろいろなものがあるのではないか。それをもっと見直すということも必要だという意見に受けとめると理解できる。そうすると、ここではもっとこれ以外にたくさんの資源があるではないかということだが、具体的にどういう資源があるか。

委員

P T Aだが、お祭りなどの見回りや、地区協議会と声かけ運動、あいさつ運動等がある。それが書かれていてもいいのではないか。

部会長

地域のいろいろな活動団体があるから、そこでやっている具体の活動内容も盛り込んでみると、もう少しこれ行数もふえるし、たくさん書いてある。

委員

今、地区協議会というのは、地域で中心になって動くということになっているが、各地区協議会では、プレートをつくったりして、見守ろうということが広がっている。それを入れていただくといいかと思う。

「ピーポ110ばんのいえ」も一時そのままになっていたが、去年ぐらいから見直しをしているので、これはこのままでいいと思う。だから、地区協議会をはじめ、民生委員などの朝のあいさつ運動等、地域でやっていることをもう少しPRしてもいいのではないか。

事務局

行政の取り組みを中心に書いていたので、みなさんが取り組んでいる活動については、この現状と課題のところでも触れていきたい。

部会長

現状、地域でやっていることを行政がどうにかするということはできないが、そういう地

域のやっていることを行政が陰ながらバックアップするという形の言い方はできる。

事務局

それと、新たな通信手段という事例が出たが、45ページでは「3 安全・安心情報の発信」ということで、「しんじゆく安全・安心情報ネット」という取り組みも始まっているので、これは事業の中で紹介をさせてもらいたいと思っている。

また、「ピーポ110ばんのいえ」については、地域の駆け込み場所になってもいいという申し出があった方について、警察が確認をして、ここだったらこのステッカーを貼れるということで認定いただいた方に交付をしているので、基本的には抑止力とともに実際に駆け込める場所として機能している。実際にはそういう事例は非常に少ないが、そういう体制はとっている。

部会長

次に40ページ、「2 子どもと一緒にのおでかけが楽しくなるまち」について。「おでかけ」というのは余りにも狭いというか具体的過ぎるので、「子どもの笑顔があふれるまちに」をこの表題にしたらどうかという提案だ。

部会長

これは検討していいのではないか。そういう意見も多いようなので、では、ぜひ意向に沿うような対応を。

委員

44ページ「携帯電話やインターネットと子どもたち」という現状と課題があるが、45ページにはその他、ネットワークや携帯というところをこれからやっていくというのが抜けているという感じする。

事務局

東京都で、例えば学校裏サイトをウォッチする組織を立ち上げたりしている動きはあるが、今の時点では、区では方向性を出せていない。個別の学校の先進的事例を区の施策として取り上げるのは難しい。

現状と課題に対して、方向性を出すというところはもっともだが、現時点では厳しい。今の時点では対応ができていないが、もう一度検討させていただきたい。

部会長

インターネットの問題は非常に大きな問題だ。対応がすごく後手後手に回っていて、技術的にもとても難しいのではないか。子どもたちは調べ学習や何かで日常的に入っていく。そ

うすると、ほとんどがああいうサイトにぶつかってしまって、騒ぐということがいっぱいあった。

委員

この部分の法律の整備がやはり一番先だろう。そういうフィルタリングなどに取り組んでいる会社はあるが、行政ではない。

委員

45ページの安全・安心情報について、具体的に情報を入手し、それをフィードバックしたという例というのはあるのか。

事務局

昨年、学校で通り魔事件があったときに、そういうものについては警察から新宿区の危機管理に情報が入るので、それを通じて区民の方で登録されている方の携帯とかに連絡が行き、注意喚起ができるというようなことで事例はあった。

委員

それは、登録されている人だけか。私はまたその地域に広報というか、こういう犯罪者が出たとか出るおそれがあるとか、災害対応ではないが、そういう区の広報施設を使ってするのかと思ったが、そうではなく、あくまで携帯等を持っていなければだめだということか。

委員

固定電話にも連絡が行くサービスもある。携帯電話のメールと、携帯電話をお持ちでない方は固定電話に連絡するという連絡方式である。民間の会社が、そういう連絡対応をしているところがある。新宿中学では全校生徒の8割以上の家庭で登録していて、有効に活用している。

委員

個人情報保護法の問題で、名簿がないこともあるので、いろいろ連絡するのは難しい。

委員

ケーブルビジョン新宿というのはご存じか。新宿区で電波状況の悪いところは無料で対応する。そこで、ずっと新宿の情報を流している。テレビだったらほとんどの家庭はあると思うので、これもちょっと生かせないだろうか。

委員

あちこちに調整中というのがあるが、次は調整中というのは結論が出てくるのか。主な事業について調整中というのがいっぱいあるが、これは次には示されるのか。

事務局

次の17日の部会で出せるように今作業を進めているところである。もし、きょう発言いただけなかった、後で思い出したとかという追加の意見があったらお送りいただきたい。

部会長

それでは、これで解散する。

午後16時00分閉会